

日本医史学雑誌 第59巻 第3号

目 次

原 著

- 近代日本における精神科作業療法の歴史的考察
——榊俣を中心に——…………… 日下部 修 365
- マラリア予防教育映画「翼もつ熱病」とその変遷
——第二次世界大戦後の彦根市におけるマラリア対策——
…………… 田中 誠二, 杉田 聡, 丸井 英二 379
- 明治最初の翻訳看護書の原著解明と看護史上の意義
——田代基徳関・岡田宗訳『看病心得草』(明治7年)—— …… 平尾真智子 391

シンポジウム「聞き取りについて」

1. 聞き取りあれこれ …………… 岡田 靖雄 407
2. 方法としての聞き取り …………… 橋本 明 411
3. 聞き取りの効用 …………… 中村 治 415

ひろば

- 法医学と検死の歴史…………… 石原 憲治 419

資 料

- 華岡青洲(3代随賢)末裔(本家)所蔵の国別門人録について(1)…………… 梶谷 光弘 425
- 池田文書の研究(46)…………… 池田文書研究会 441

記 事

- 例会記録…………… 451

例会抄録

- 大正11年制定, 昭和2年施行の健康保険法についての一考察
——関東大震災と医療体制史を含めて——…………… 渡部 幹夫 451
- 日本における精神科医療・医学史研究の歩み(その1)——戦前…………… 岡田 靖雄 453
- 八丈島の疱瘡史…………… 對馬 秀子, 土屋 久, 酒井 シヅ 455
- 陶烈と日本医学界…………… 藤田 梨那 456

書 評

- 多賀須幸男著『医者たちの覚音——日本医家の苦労話——』…………… 渡部 幹夫 458

書籍紹介

- 財団法人日本国際医学協会編『黎明期の日本近代医学・薬学:
日独交流150周年記念出版』…………… 澤井 直 459

《本号の表紙絵》

『現代醫學大辭典附録 第一號』

(春秋社, 昭和四年 (『現代醫學大辭典』))

『現代醫學大辭典』は昭和4-8年にかけて刊行された全27巻の医学辞典である。基礎医学と臨床医学の各分野ごとに1巻から4巻が割り当てられ、山極勝三郎や稲田龍吉などの当時の日本を代表する多くの医学者が執筆している。本文は縦書きで、各項目はあいうえお順で配列されている。各項目の冒頭に日本語の用語・名称が太字で大きく書かれ、それに対するドイツ語・ラテン語名が横に小さく書かれている。項目の説明は、疾患については病因→種類→療法・術式の順で簡潔に当該の疾患についての情報が盛り込まれ、器具の項目では器具の使い方などの説明が行われており、医学に関するあらゆる情報が辞典という形でまとめられている。

この辞典がどのような着想から企画され、実際に多くの執筆者の手で作られるようになった経緯については、辞典を構成する各巻には何も書かれていない。唯一の手がかりは第1回配本の第12巻『婦人科学産科学篇 上巻』の附録であった。4頁からなる附録には「『現代醫學大辭典』の豫約出版に際して」と題された一文があり、そこでは日本の医学が進歩して諸外国に劣るものではないことを述べた後、当時の医学の講義や論文発表などのすべての活動外国語によって行われていることを憂えている。そのうえで「醫學を日本語の學問とすべきである。そして現在雜然たる日本語の術語を整理し統一すべきである」と述べている。『現代醫學大辭典』は単なる医学辞典ではなく、後に日本医学会が行う用語整理事業と同一の問題意識の元に作られたことを、この附録は伝えている。

配本物の附録は保存されないことも多いが、本体である冊子そのものからは窺い知れない情報を含んでいることもある。

(澤井 直)